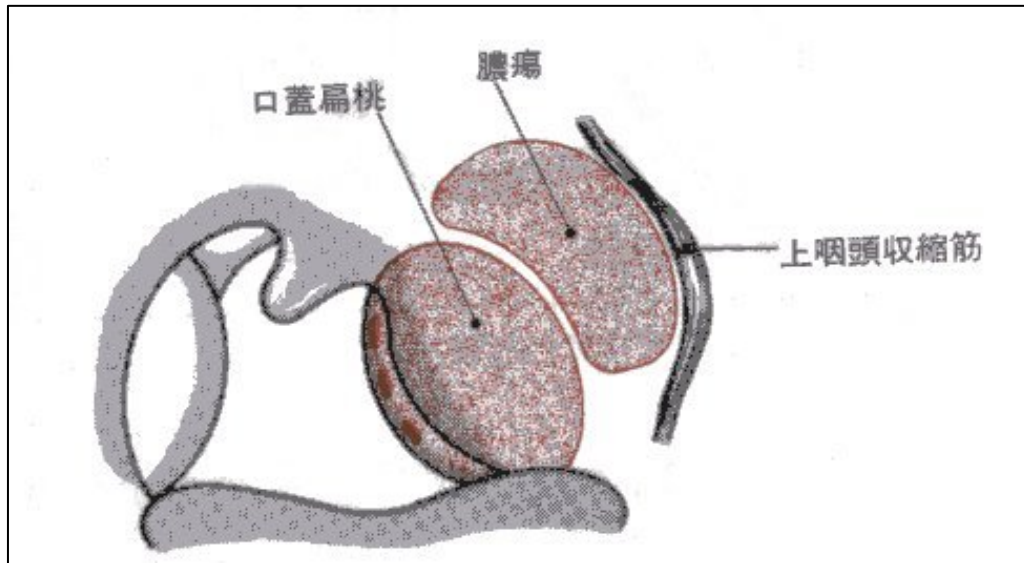


扁桃周囲膿瘍切開排膿術・説明

1. 病名： 右 ・ 左 扁桃周囲膿瘍
2. 現在の症状： 扁桃の急性炎症が周囲に波及し、扁桃周囲に膿瘍ができています。
3. 手術の必要性・目的： 膿瘍内に溜まった膿を排膿します。
4. 処置（手術）予定日： 平成 年 月 日
5. 予定手術名・麻酔方法
手術名： 扁桃周囲膿瘍排膿術
麻酔法： 局所麻酔
6. 手術の方法とその特徴
局所麻酔をした後に、口を開いた状態で口蓋扁桃周囲膿瘍を穿刺し、膿を確認した上で切開排膿します。止血を確認して終了です。
7. 手術に伴う危険と考えられる合併症
 - ① 出血
 - ② 傷（手術操作による）
 - ③ 迷走神経反射 → 安静にて改善しない場合は、点滴や昇圧剤にて対応します。
 - ④ 膿汁の誤嚥 → 切開排膿後、膿が口腔内に流出してきますので、吐き出して頂きます。
8. 手術後の経過予想と考えられる後遺症
 - ① 出血： 扁桃は大変出血しやすい臓器です。出血がひどい場合は、全身麻酔をかけて止血を行うことがあります。
 - ② 呼吸困難（のどの浮腫が起こる）：
→ ステロイドの吸入、点滴などで経過をみますが、一時的に気管切開術が必要になることもあります。
 - ③ 舌のしびれ、味覚障害：舌の圧迫や舌咽神経の傷害により、生じる可能性があります。
9. 可能な別の治療方法とその予後
抗生剤のみによる治療。膿瘍内部には抗生剤は到達しにくく、回復までは時間がかかると予想されます。また病状が進行し、深頸部膿瘍、縦隔膿瘍など致死的な状態になることもあります。

●口蓋扁桃と膿瘍の位置関係



●扁桃周囲膿瘍切開排膿術：

口蓋扁桃の周囲を切開し、排膿する。膿は菌検査に提出する。

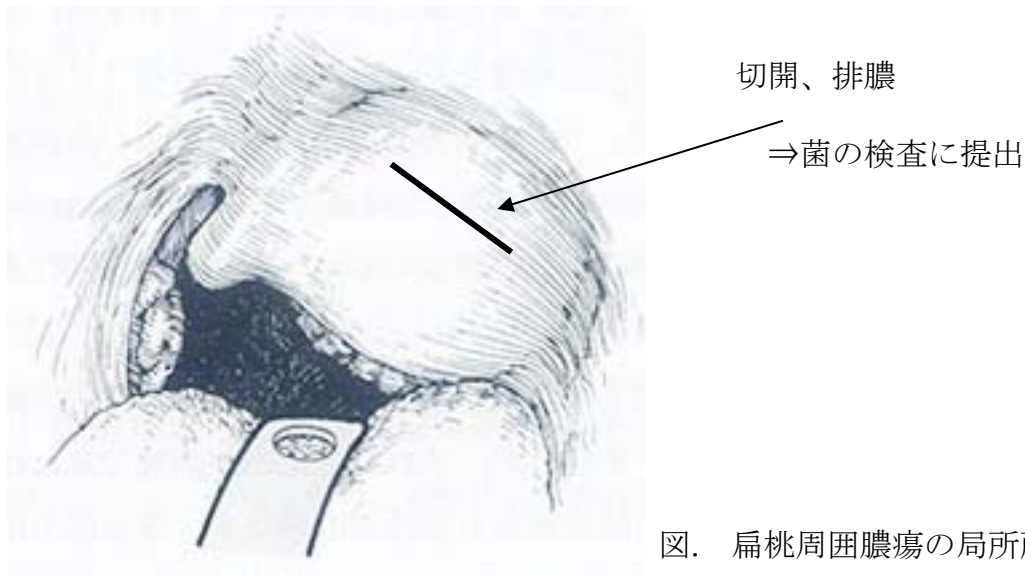


図. 扁桃周囲膿瘍の局所所見

【扁桃周囲膿瘍の治療】

水分補給および抗菌薬の投与を行います：高用量ペニシリン系抗生物質ないしセファロスポリンやクリンダマイシンを用います。

その後、細菌培養検査によって選択した抗生物質を7-10日間投与します。

扁桃周囲膿瘍の切開と排膿は、救急外来で局所麻酔下、ときに意識下鎮静で行います。重症では、抗生物質の点滴投与、静注による水分補給（補液）および気道の監視を行うために短期間の入院が必要となります。

経過での増悪があると、呼吸困難を来します。この場合、（緊急）気管切開を必要とする場合がありますし、間に合わずの窒息死に至る可能性もあります。